

Title	後記
Sub Title	
Author	築山, 宏樹(Tsukiyama, Hiroki)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2024
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.97, No.2 (2024. 2) ,p.231- 232
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	河野武司教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20240228-0231

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

後記

河野武司先生は、二〇二四年三月末日をもって、慶應義

塾大学法学部を定年退職される。二〇〇四年四月に杏林大学から転任されて以来、ちょうど二〇年の節目である。私が法学部政治学科に入学したのが二〇〇六年四月のことなので、河野先生の慶應義塾での教員生活の多くの期間中、学部生、大学院生、そして同僚という異なる立場において、ご指導を賜ることができたのは私にとって幸いであった。

私が河野先生をはじめてお見かけしたのは、今も開講されている学部の「現代政治理論」の授業においてであったと思う。この授業では、シュンペーターやダウنزの民主主義理論を簡潔明瞭に講義なさっていたのが印象的で、大変参考になった。大学院の「公共政策論」の授業でも、当時話題になっていたウィットマンの民主主義の効率性論に対するカプランの批判について講義を受けたことを記憶している。このように河野先生は代議制民主主義における市民の情報の非対称性の問題に強く一貫した関心をお持ちで

あり、それゆえ学生の研究に対して助言される機会にも、研究の瑣末な論点は固より、その背後にあるべき首尾一貫した問題意識を問われることが多かった。私自身つい先頃、「君の研究対象は便宜的な理由によって選んだものなのか、今後何を明らかにしていくつもりなのか」と手厳しい指摘を頂いたばかりである。

一方、河野先生は学生思いの教員であられた。私は河野先生と直接の指導関係になかったが、大学院の授業後にときどき他の院生を連れて飲みを誘って頂いた。学会やシンポジウムの懇親会の場でも、気さくに声をかけて頂いたことが思い返される。何より、政治理論部門で共に働かせて頂くようになってからは、その担当授業の数に驚かされた。正確な数は承知していないが、近年は学部、大学院、通信教育部、法務研究科で、あわせて二〇近い授業を開講されていたと思われる。私が授業負担のあり方に疑問を呈すると、「学生に教えるのは楽しいから負担ではない」と笑われていた。本論文集には、そのような河野先生のお人柄を慕う多くの先生方から寄稿された論文が所収されている。四月からは大学での教育・研究を継続されるとお聞きしている。お身体には気をつけて、河野先生が引き続き大学の教室で楽しい時間をお過ごしになられることを祈念して、

本論文集を上梓させて頂く次第である。

二〇二四年一月

法学部准教授 築山宏樹